

## 第8回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」 全国表彰式

「世界遺産条約」の理念の普及とともに、小・中学生に地域の文化や身近な自然環境のすばらしさを見つめ直し、それらを未来へ引き継ぐ気持ちを育むこと目的に「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」の全国表彰式が3月28日(火) あいおい損害保険株のセンチュリーホール(東京・恵比寿)で開催されました。



表彰式は、全国のユネスコ協会から推せんされた優秀作品(171作品)から、平山郁夫特別審査委員長らによって選ばれた12作品の受賞者を招いて行われました。

会場には、満開の桜の木を色調豊かに描いた「桜の木のある風景」=日本ユネスコ協会連盟会長賞や、福知山線の事故で中止になった花火大会を想像で描いた「らい年はあるといいな花火大会」=あいおい損害保険株式会社賞、築百年以上の旧家を力強い筆づかいで描いた「この家すごすぎるぜ!!!」=全国審査大賞など、地域のたからものを個性豊かにとらえた受賞作品が展示されました。



受賞者を代表し、京都府舞鶴市の前田夏花さん(小学5年生・11歳)は壇上で「描いているうちに、自分の町にもこんなすばらしい桜の木があったことに気づきました。今回わたしの町のたからものを絵で表現して皆さんに知ってもらえましたが、今後も自分の町や京都の良いところを表現していきたい」と語ってくれました。

なお受賞作品は、2006年6月3日(土)、4日(日)「第62回日本ユネスコ運動全国大会(岩手大会)in花巻」  
<http://www.unesco.jp/topics/NationalConvention2006.pdf>にて展示を予定しています。

また今回の受賞作および審査コメント等は4月5日(水)より、HPで公開予定です。

「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」および「過去の受賞作品」などの詳細はこちら

<http://www.unesco.jp/contents/communication/townart.html>